



福島県立梁川高等学校
令和元年9月20日
校長だより
知性 誠実 責任
第 39 号

■ 地域課題探究活動その2

〈桃のジュースについて〉

- [動機] ① 桃のジュースは、どんな種類の桃を使用しているのか。
② どこでどのように作られているのか。
③ 桃のジュースにはどんな種類のジュースがあるのか。
- [内容] ① J Aふくしま未来伊達地区本部の方にインタビューした。
② 極晩生種（ピンクの桃）あかつきを使っている。
③ 今から15年前の2004年に山形食品株式会社で果汁をそのまま搾れる技術を生かして開発され桃のジュースは誕生した。
④ 多くの人が飲んだことがなく、味が分からないため売れなかった。味を知ってもらうまで大変だった。
⑤ 傷つき品物にならない桃に価値をつけて農家の利益にするために販売を始めた。
⑥ 桃のジュースには食物繊維とビタミンCが入っている。
⑦ 口コミやお土産屋さんによって他県の方々にも福島の桃のジュースを味わっていただきたい。

〈伊達鶏ソフトカルパス からだにやさしい自然のおいしさ〉

- [内容] ① 伊達鶏とは、シャモやカシワは少し固すぎる。そんな声に応えるべく美味しさにこだわり赤鶏×赤鶏の掛け合わせで誕生した銘柄鳥。
② 美味しい伊達鶏を育む4つのこだわりがある。それが「安全」「安心」「食感」「うま味」。
③ 「安全」では、ストレスを与えないように平飼飼育をしている。ワクチンを投与して病気の予防に努め、抗生物質を使わない飼料を与えている。
④ 「安心」では、適正表示マニュアルに従い品質表示を徹底している。商品情報はできる限りオープンにし、商品のルート開示に努めている。
⑤ 「食感」では、平飼いによる適度な運動により鶏を丈夫にし、余分な脂身をつきにくくさせている。これにより肉に適度な弾力性がつき、ジューシーな食感になる。
⑥ 「うま味」では、厳選された穀物中心の飼料を与えている。またミルクを与えうま味を引き出すようにしている。
⑦ 伊達鶏を飼育する方々は長年鶏を飼育しているプロばかりで鶏の状態を適切に見極め愛情をもって飼育している。
⑧ 伊達鶏は鶏種、飼育日数、飼料にこだわったことで、やわらかな歯ごたえが特徴でソフトカルパスは「福島美味しい大賞」受賞商品に選ばれている。

〈伊達市のおいしいリンゴ 水口農家さんに聞いてみた〉

〔動機〕 ○ 私たちがなにげなく食べているリンゴを改めて調べてみようと思った。

- 〔内容〕
- ① 雨が降らなかつたり晴れがずっと続いたりすると枯れてしまう。寒暖の差でリンゴの色が変わってしまう。鳥が実をつついてしまう。
 - ② 袋をかけて育てるのを「ふじ」、袋をかけずに育てたものを「サンふじ」として流通している。袋をかけた方が赤くきれいに着色するが、糖度などは無袋栽培にして太陽光を多く浴びたサンふじの方が勝る。
 - ③ 「ふじ」の名前は、公式には育成地である青森県藤崎（ふじさき）と富士山にちなむ。さらに発案者が女優の山本富士子のファンであったことも命名の理由である。欧米でも「Fuji」と日本同様の名前で親しまれている。
 - ④ 「ふじ」はリンゴ収穫量の55%を占めている。最も多いのは青森県で、次が長野県である。
 - ⑤ 中国ではリンゴ生産量の45%がふじである。
 - ⑥ 原発の影響で福島のリントを食べる人が減ってしまったが、おいしくて安全なので食べてほしい。

〈伊達市のおいしいぶどう 農家の人に聞いてみた〉

〔動機〕 ○ 伊達市のおいしい果物について知ってもらいたかった。

- 〔内容〕
- ① ぶどうの収穫などで忙しい時期に雇える人が少ないが、従業員は忙しい時期だけ多めに雇うなどしている。
 - ② 天気や病気などの影響で収穫量が少なくなってしまう。解決策をいろいろと探っている。
 - ③ ぶどうが実っても動物に食べられてしまう。
 - ④ 梁川は盆地にあるため昼夜の寒暖差が激しく、とても甘いぶどうがなっている。

〈あんぽ柿 情報提供：宍戸さん・野崎先生〉

〔目標〕 ○ 身近ながらも遠い存在である柿について調べ、あんぽ柿のよさを知る。

- 〔内容〕
- ① 250年前に五十沢に住む七右衛門という人物が柿の木を持ち込んで植え付けた。この柿の皮をむいて天日で干したものが天干柿（あまぼし柿）と呼ばれ、明治時代になり、干し柿に用いていた柿を鉢屋柿、天干柿をあんぽ柿と呼ぶようになった。
 - ③ あんぽ柿はアメリカの干しぶどう作りを参考に硫黄で燻蒸する方法を大正時代から始めた。硫黄の膜ができるので殺菌効果もある。
 - ④ 東日本大震災によって柿の放射性物質が多くなり柿が売れなくなった。放射性物質が少ない柿の木を調べて安全な柿を作るようにした。3年目にやっと食べてもらえる安全な柿を作ることに成功し、出荷量も震災前の80%まで回復した。

【講評】

発表やプレゼンは難しい。緊張するし慣れも必要である。今回は2時間で1回しか発表していない。回数も経験も足りない。機会があるたびに工夫しながら取り組んでほしい。